

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



どれい  
ヨセフを  
まも かみ  
守られる神



ぶん  
文: Edward Hughes

え  
絵: M. Maillot; Lazarus

かいさくしゃ  
改作者: M. Maillot; Sarah S.

ほんやくしゃ  
翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ  
出版社: Bible for Children

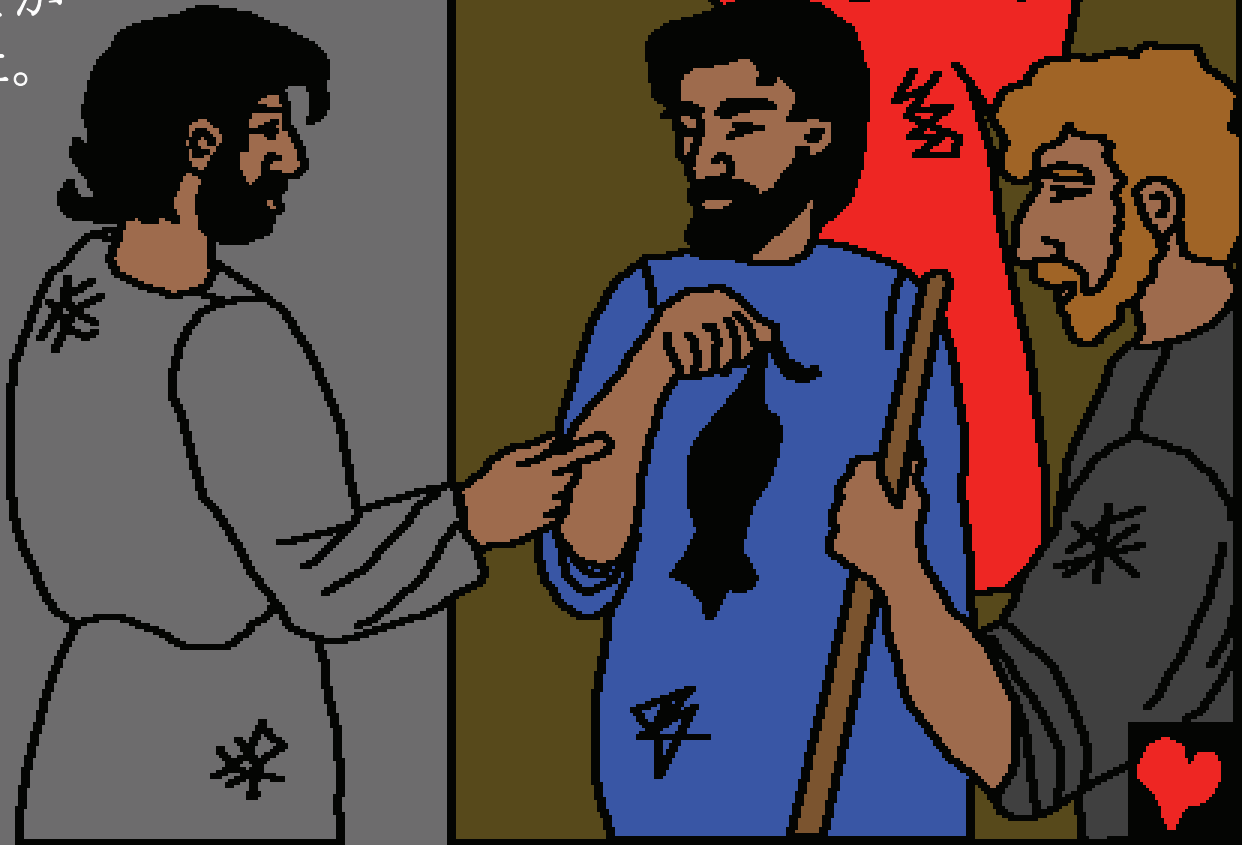
[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

©2007 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし また  
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、  
きよか  
許可されています。



ヨセフは、なぜかわからないまま、ヨセフの<sup>まえ</sup>前  
の<sup>しゅじん</sup>主人ポティファルに、ろうやに<sup>ほう</sup>放りこまれて  
しまいました。ろうやの<sup>なか</sup>中で、ヨセフはいつ  
<sup>ぼたら</sup>しょうけんめい働<sup>しごと たす</sup>き、みんなの<sup>ばんにん</sup>仕事を助けま  
した。そこで、ろうやの<sup>ばんにん</sup>番人はヨセフをすっか  
<sup>しん</sup>り信<sup>やく</sup>じ、ろうやのまとめ役をか  
れにまかせるようになりました。  
<sup>かみ</sup>神さまが、いつもヨセフと  
いっしょにいてくださった  
ので、ろうやの<sup>なか</sup>中<sup>なか</sup>にいる人  
たちは、みんなとても<sup>きも</sup>気持  
ちよく<sup>せいかつ</sup>生活できるよ  
うになってきましたよ。



さて、このろうやに、<sup>おう</sup>王さまの<sup>りょうりやく</sup>料理役と<sup>きゅうじやく</sup>給仕役  
が<sup>い</sup>入れられていました。ある<sup>ひ</sup>日のこと、ヨセ  
フはかれらに<sup>き</sup>聞きました。「どうして、そん  
な<sup>かな</sup>に<sup>こま</sup>悲しそうなかおをしているのですか。」二人は  
すっかり<sup>こま</sup>困っ

たようすで、  
このように<sup>こた</sup>答  
えました。



「わたしたちは、ゆめをみたのですが、だれもそ

い み

のゆめがどんな意味なのか、わからないの

かみ

ですよ。」「神さまにきけば、いいですよ。

なんでもわかっていらっしゃるのだから！」

い

い

ヨセフはこう言い、「さあ、言ってみてください。

それは、

どんなゆめな

のですか。」

とたずね

ました。



「あなたのゆめの意味はね、三日たてば王さまファラオの所にもどり、また王さまに仕えるようになるってことですよ。ですから、どうか私のことをおぼえていて、王さまに、私をろうやから出して自由になれるように、たのんでください。」

ヨセフは、給仕役にこう  
言いました。けれども、料理役  
のゆめは、わるい知らせでした。  
「三日たてば、あなたは殺されて  
しまうでしょう。」とヨセフ  
は、言いました。

ほんとうに二人は、  
そのゆめのとおりになっ  
たのです。



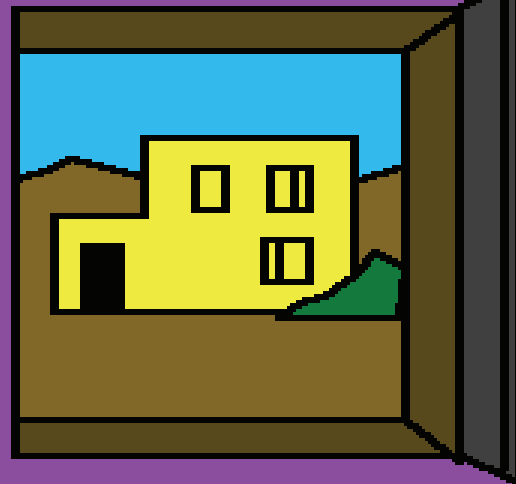
きゅうじやく

さてそれから、**給仕役**は、ヨセフのことなどすっかりわす

れてしまいました。ある日、目がさめたファラオが、すっ

かり困<sup>こま</sup>ったかおをしているのを見る<sup>み</sup>まではね。「**私**は、<sup>わたし</sup>

ゆめを見<sup>み</sup>たんだよ！」ファ  
ラオがさげびました。  
でもね、だれもファ



ラオのゆめがどう

い<sup>い</sup>み  
いう **意味**なのか、  
ひと

わかるようなかしこい人は  
いませんでした。そこ

きゅうじやく  
で、**給仕役**は、とつぜんろうやの中<sup>なか</sup>に

いるヨセフを思<sup>おも</sup>い出<sup>だ</sup>したのです。かれは、  
さっそくファラオにヨセフのこと

はな  
を話<sup>はな</sup>しました。



ファラオは、すぐに<sup>つか</sup>使<sup>だ</sup>いを出し、ヨセフにここへ<sup>く</sup>来<sup>く</sup>るように  
い<sup>い</sup>言<sup>お</sup>いました。「王<sup>おう</sup>さまのゆめは、神<sup>かみ</sup>さまからの<sup>でんごん</sup>伝言<sup>でんごん</sup>なのです。」

ヨセフは王<sup>おう</sup>さまファラオにそ<sup>しちねん</sup>うい<sup>しちねん</sup>ました。「エジプトは、これ<sup>のうさくぶつ</sup>から<sup>しちねん</sup>七<sup>しちねん</sup>年のあい  
だ、た<sup>のうさくぶつ</sup>くさんの農<sup>のうさくぶつ</sup>作物<sup>のうさくぶつ</sup>が、ゆたかに<sup>しちねん</sup>み<sup>しちねん</sup>のり、そしてつぎの七<sup>しちねん</sup>年<sup>しちねん</sup>は、ひどい<sup>しちねん</sup>き<sup>しちねん</sup>きん  
となり、なに<sup>のうさくぶつ</sup>一つ農<sup>のうさくぶつ</sup>作物<sup>のうさくぶつ</sup>がとれ<sup>しちねん</sup>なくな<sup>しちねん</sup>ってしま<sup>しちねん</sup>うで<sup>しちねん</sup>しょう。」





おう　いま　けいかく　た  
「王さま、どうぞ今、計画を立てて  
　　みの  
ください。これからのゆたかに実る  
しちねん　あいだ　た  
七年の間に、食べるものをたっぷり  
とたくわえてください。」ヨセフは  
ファラオにこうおしえてあげまし  
た。「そうしないと、あなた  
　　くに　ひとびと  
の国の人々は、ききんのた  
　　し  
め死んでしまうでしょう。」  
　　かみ  
「ヨセフ、神はいつもおま  
えといっしょにおられる。  
おまえにこのエジプトの  
　　くに　わたし  
国をまかせよう。私につ  
づく次のものとしてだ。」  
ファラオは、きっぱりとこ  
　　い  
う言いました。



それから七年間、みのりの時がやってきました。そして次の七年間は、ききんの時でした。食べ物は、すっかり足らなくなってい、どこへ行ってもみつきり

ません。でも、みんなが、いっしょうけんめい働いて、たくさんの食べ物をたくわえてあったエジプトだけは、だいじょうぶ。ここから、とおくはなれているヨ

セフの生まれたところでは、ヤコブのかぞくが、食べるものがな

くて困って  
いました。



くに ひとびと

か

い

たくさんの国の人々が、とうもろこしを**買**おうとエジプトに行くようになりました

い

むすこ

た。「おまえたちも**行**かなければなるまい。」ヤコブは、**息子**たち  
にめいれいしました。「もしないと、われわ

た

し

れは**食**べるものがなくなり、**死**ん  
でしまうことになる。」

むすこ

そこで、**息子**たちは、  
エジプトに行**っ**て**食**べ  
ものを**買**うじゅんび  
をしました。



ヤコブの息子たちは、エジプトの君主のようなえらい人の前で、あ  
たまを低く下げて、おじぎをしました。かれらは、その人が、ヨセ  
フだって気がつきませんでした。でもね、ヨセフは、すぐ気がつき  
ましたよ。そのとき、ヨセフは小さいころに見たゆめを、思い出し  
ました。神さまがヨセフに言われたゆめ、それは、かれが兄さ  
んたちより、えらい者となるだろうということでした。



ひと  
ヨセフは、たいそうかしこい人でした。かれは、わざと、  
にい はな にい ひとり  
兄さんたちにらんぼうに話し、兄さんの一人シメオンを、ひと

お  
じちとしてここに置くことにしました。「さ

たべもの いえ  
あ、食べ物をもっていけ！おまえたちの家

した  
にもどり、いちばん下の

おとうと  
弟をつれて、

またここに  
もどってくる  
のだ。」



ヨセフは、こうめいれいし、「それで、<sup>わたし</sup>私はおまえたちがス  
パイでないことが、わかるだろう。」と<sup>い</sup>言いました。<sup>にい</sup>兄さんた  
ち<sup>おも</sup>は、<sup>かみ</sup>思いました。もしかしたら、<sup>じぶん</sup>神さまは  
<sup>ぼつ</sup>罰をあたえられているのかもしれないって。<sup>なんねん</sup>自分たちに  
何年もま

<sup>おとうと</sup>えに、<sup>どれい</sup>弟ヨセフを  
どれい

<sup>う</sup>として<sup>う</sup>売ってし  
まったから  
です。



わたし はら かね なか  
「あれっ、私たちが払ったお金が、どうもろこしのふくろの中にもどされている  
よ。それに、あの君主のような人は、私たちにベニヤミンをつれてくるよう  
に、めいれいしたんだよ。」ヤコブも息子たちも 何が何だか  
わからなくなっていました。ヤコブは、ベニヤミン  
を行かせたくありませんでした。けれども、すぐに  
食べ物はなくなっていました。兄さん  
たちは、またエジプトにもど  
らなければなりません。  
こんどは、



ベニヤミンをつれてね。

ヨセフは、ベニヤミンを<sup>み</sup>見てすぐに、<sup>しょうにん</sup>使用人たちにすばらしいごちそうを<sup>ようい</sup>用意する  
ように、<sup>い</sup>言いました。<sup>にい</sup>兄さんたちもみんな<sup>しょくじ</sup>食事によばれましたよ。「おまえた  
ちの<sup>ちち</sup>父は、まだ<sup>い</sup>生きていて、<sup>げんき</sup>元気なのか？」ヨセフはたずねました。もしかしたら、  
ヨセフは、どのようにして<sup>かぞく</sup>家族みんなを、ここエジプトにつれてくること  
ができるのだろうって、<sup>かんが</sup>考えていたのかもしれないね。





それにまた、ヨセフは、<sup>にい</sup>兄さんたちが<sup>なんねん</sup>何年かまえに<sup>じぶん</sup>自分  
にしたことを、ほんとうに<sup>わる</sup>悪かったと<sup>おも</sup>思っているか  
どうか、<sup>し</sup>知りた<sup>おも</sup>いと思<sup>えんかい</sup>いました。そこで、**宴会**のあ  
と、ヨセフはわざと、<sup>にい</sup>兄さんたちが  
<sup>ぬす</sup>盗みをはたらいたと<sup>い</sup>言<sup>せ</sup>って責めました。  
そして、<sup>い</sup>こう言<sup>い</sup>いました。「おまえ  
たちに、<sup>ばつ</sup>罰をあたえる。

ベニヤミンは、<sup>わたし</sup>私のどれいとなって、  
<sup>いっしょう</sup>一生ここにいて、はたらいてもらお  
う。」



すると、兄<sup>にい</sup>さんのひとりユダがこう<sup>い</sup>言<sup>い</sup>って、ヨセフに  
たのみ<sup>わたし</sup>ました。「私<sup>わたし</sup>の主<sup>しゅ</sup>よ。どうぞベニヤミンのかわ  
りに、私<sup>わたし</sup>をあなたのどれいとして、はたらかせて  
ください。」それを聞<sup>き</sup>いて、ヨセフは  
わかりました。ヨセフを売<sup>う</sup>ったと思<sup>う</sup>  
われる兄<sup>にい</sup>さんユダは、すっかりと良<sup>よ</sup>  
い人<sup>ひと</sup>にかわっていることが。





じぶん かぞく  
もはやヨセフは、自分がみんなの家族であることをだまっ  
しょうにん じん で  
ていられなくなり、使用人のエジプト人みんなに、出  
い  
行ってもらいました。とうとうヨセフは

な だ にい  
泣き出しました。「兄さ  
わたし  
ん、私はヨセフですよ。

おとうと  
あなたたちの弟の。  
あなたたちが、エジプ  
う  
トへ売ってしまったヨ  
にい  
セフです。」兄さんた

ちは、ただもうびっ  
くりぎょうてん。おそろ  
なん  
しくなってしまうと、何  
にもこたえることがで  
きません。



にい  
ヨセフは兄さんたちに、こわがらなくていいよって、  
い  
言<sup>かみ</sup>ってあげました。「神さまがね、

わたし  
私<sup>ひと</sup>をエジプトでえらい人に  
してくださったんです。私<sup>わたし</sup>が、この  
き  
飢<sup>にい</sup>きのときに、兄<sup>とう</sup>さんや父<sup>いのち</sup>さん、  
みんなの命<sup>たす</sup>を、助<sup>たす</sup>けることができる  
ようになってね。



い わたし ちち  
さあ、行って、私の父をここにつれてきてください。  
わたし み  
私が、みんなのめんどろを見まし  
よう。」

ヤコブとヨセフは、またエ  
ジプトでいっしょにくらせるよ  
うになりました。家族がみんなひと  
かぞく  
つになって、くらせるようになった  
のです。そう、<sup>へいあん</sup>平安に、そしてゆた  
かにね。



まも かみ  
どれいヨセフを守られる神

かみ み せいしょ しる  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう  
創世記 39 章 -45 章

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま  
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとも愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ じゅうじかじょう な  
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ  
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするらな、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくさいます。そして、いつまでもいエスさま  
まといっしょにいることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるらな、神さまにこう言ってくさい。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛す神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくさいました。そして、よみがえって、いまいるま生きて  
いらっしゃいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてくさい。それで、私は今、あた  
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる  
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子としていることができますよう、たす  
けてくさい。アーめん

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなしましよう！ ヨハネによる福音書3：16

